

細谷章夫教授の定年退職によせて

新学年度が始まり、文学科日本語日本文学専攻・英語英文学専攻は、希望に満ちた新入生を迎え、学内に新鮮な風が吹き込まれ若いエネルギーに満ちている感じがします。しかし、文学科といたしましては細谷章夫教授が定年退職後、後任の先生の御着任が遅れております関係で、細谷教授の定年退職の実感が薄い感じが致しております。この度、本学人文学会では、論集『人文』27号を、研究・教育・管理運営など様々な面で、本学に多大な貢献をされました細谷教授への感謝の印として、刊行することになりました。

細谷教授は、1970（昭和45）年慶応義塾大学大学院文学研究科哲学専攻博士課程を修了され、1978（昭和53）年本学一般教育（哲学）助教授として御着任、1988（昭和63）年教授に昇任され、1995（平成7）年の学科再編の際文学科に分属され、2003（平成15）年に定年退職されるまでの25年間の長きに亘り、本学で教育・研究に御専念され、数々の顕著な業績をあげてられました。

細谷先生は、カント哲学を一貫して研究され、純正理性批判、実践理性批判、及びアンチノミーにおける統制的原理等に関する論文を多数発表され、精力的に研究活動を行ってこられました。特に、西ドイツミュンスター大学留学後は、ドイツ事情、韓国事情、美学も研究領域に組み込まれ、学科再編時の新設科目「比較文化」に対応して、新たな視点で優れた比較文化研究も行ってこられました。

また、教育活動においても、本学で、哲学、倫理学、人間と文化、比較文化、ヨーロッパ事情、ドイツ語等の講義及び演習等を担当され、幅広い視野を有する先生の力量を遺憾なく発揮されました。また、鹿児島大学等で、非常勤として、倫理学等を現在も担当されていらっしゃいます。

学内管理運営面においては、文学科長の重責を2期務められると共に、各種委員会の仕事に尽力され、本学に多大な貢献をされました。

更に、社会教育活動としては、本学の公開講座のみならず、鹿児島県教育委員会等主催の講演等も多数され、専門の哲学の啓蒙活動にも多大な尽力をされてこられました。

このような、細谷先生の長年にわたる教育・研究・管理運営・社会活動の御功績に対しまして、「鹿児島県立短期大学名誉教授称号授与規程」に基づき、5月1日に本学で24人目の名誉教授の称号が授与されました。

御退職後も、細谷先生の御健康とますますの御活躍を祈念いたしますとともに、本学へのお力添えをお願い申し上げたいと思います。

平成15年6月

文学科長 久木田 美枝子